

[別添]

Project PLATEAU事業推進に向けての情報提供依頼（RFI#2）

募集テーマ

募集テーマ一覧

管理 No	カテゴリ	項目	頁
01	B. データ整備手法の効率化	民間企業が保有する点群データ等を活用した3D都市モデルの整備	3
02	C. データ高度化・価値向上	ID連携・住所連携のための技術開発	3
03	C. データ高度化・価値向上	文化・歴史まちづくりを推進するデジタルコンテンツ造成	4
04	F. データハンドリング技術のOSS化	3D都市モデルを3D City DBに対応させるためのプラグイン開発	4
05	G. 先進技術活用型ユースケース開発（防災・防犯）	津波・氾濫流による家屋倒壊・瓦礫漂流物シミュレーションの開発	5
06	G. 先進技術活用型ユースケース開発（防災・防犯）	災害現場における3D都市モデルの迅速な被害状況把握及び情報共有ツールの開発	5
07	G. 先進技術活用型ユースケース開発（防災・防犯）	火災延焼シミュレーションシステムの開発	6
08	G. 先進技術活用型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）	仮想道路空間における交通安全対策シミュレーション	6
09	G. 先進技術活用型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）	建築計画ボリューム可視化シミュレーションシステムの開発	7
10	G. 先進技術活用型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）	3D都市モデルを活用した不動産事業者向け情報集約システムの開発	7
11	G. 先進技術活用型ユースケース開発（環境・エネルギー）	樹木データを活用した樹木管理及び都市環境評価支援システムの開発	8
12	G. 先進技術活用型ユースケース開発（環境・エネルギー）	壁面太陽光発電ポテンシャル推計システムの開発	9
13	G. 先進技術活用型ユースケース開発（モビリティ・ロボティクス）	3D都市モデルとBIMを活用した三次元シームレス物流の実現	10
14	H. 先端技術研究型ユースケース開発（防災・防犯）	データ駆動型汎用高速物理シミュレーション	11

15	H. 先端技術研究型ユースケース開発（防災・防犯）	豪雪地帯の建築物における落雪リスク算出システムの開発	11
16	H. 先端技術研究型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）	LLMエージェント型人流シミュレーションを用いた自然言語による都市構造評価	12
17	H. 先端技術研究型ユースケース開発（地域活性化・観光・コンテンツ）	屋内空間のバリアフリー対応状況を可視化するシステムの開発	12
18	I. 社会実装型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）	街路空間の再整備計画等における合意形成ツールの作成	13
19	I. 社会実装型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）	ウォークブルな都市空間づくりのための統合型シミュレータの開発	14
20	I. 社会実装型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）	大規模イベント開催等に伴う人流・交通シミュレータの開発	15
21	I. 社会実装型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）	3D都市モデルと人流シミュレーションを活用した花火大会の会場適地選定	15
22	I. 社会実装型ユースケース開発（地域活性化・観光・コンテンツ）	駅バリアフリーナビゲーションシステムの開発	16
23	I. 社会実装型ユースケース開発（インフラ管理）	地下埋設物モデルを活用した建築設計・施工管理	17
24	I. 社会実装型ユースケース開発（その他）	地方公共団体向けクラウド型GISサービスの開発	18
25	J. ムーブメント惹起	GIS教育に利用可能な都市シミュレータ・教育コンテンツの開発	19
26	J. ムーブメント惹起	XRを活用した都市型エンターテインメント	20
27	T. データアクセシビリティの向上	3D都市モデルと統合型GISの連携手法の開発	21
28	T. データアクセシビリティの向上	PLATEAU VIEWデスクトップ版（簡易なシミュレーション機能等を含む。）の開発	22
29	X. 国際展開	PLATEAUの国際展開ニーズ調査及びモデルデータ整備	23

1. データカバレッジ拡大

B. データ整備手法の効率化

管理No	01
項目	民間企業が保有する点群データ等を活用した3D都市モデルの整備
カテゴリ	B. データ整備手法の効率化
施策	• LOD3の整備には点群データが必要であり、現在はMMS等により個別に都度測量をしており高コストである。これらに対して、民間企業が保有する点群データを諸元とした低コストで3D都市モデルを整備する手法を確立する。 • 民間企業等が保有する点群データを3D都市モデルの諸元データ整備に求められる公共測量成果として利用するために国土地理院等の関係者と必要な調整を行う。
想定される スコープ	① 民間企業が有する点群データ等を用いた3D都市モデルの作成手法の開発 • 民間企業が有する点群データ等を測量成果として利用するための課題抽出・有用性検証 • 点群データから3D都市モデルを効率的に作成するための手法開発 ② 民間企業等が公共測量成果として有する点群データの利用可能性の検討 • 点群データを利用して公共測量申請を行うための調査及び国土地理院との調整

C. データ高度化・価値向上

管理No	02
項目	ID連携・住所連携のための技術開発
カテゴリ	C. データ高度化・価値向上
施策	• 不動産IDとの連携を見据えつつ、建築物モデルと住所の連携手法の確立や3D都市モデルにおける建物IDの一貫性を向上させることで、都市行政等における利活用を促進する。
想定される スコープ	① ID連携のための技術開発 • 任意座標系で作成された登記所備付地図（14条地図）を一定の精度を持った公共座標系のデータに変換する技術の開発。 • 建築物オブジェクトを区別・特定するための識別子である建物IDについて、データ更新における建物IDの引き継ぎ精度を向上させるための技術の開発。 • 過年度の検証結果を踏まえて見直された不動産IDと3D都市モデルとの連携に向けた調査及び連携手法の検討。

管理No	03
項目	文化・歴史まちづくりを推進するデジタルコンテンツ造成
カテゴリ	C. データ高度化・価値向上
施策	● 文化・歴史の観点から価値のある建築物や都市設備を次世代へ継承や観光コンテンツとして、LOD4相当のデータとして保存・公開（アーカイブ化）を行う。
想定される スコープ	①文化・歴史の観点から価値のある建築物等の3D都市モデルの整備 ● 文化・歴史の観点から価値のある建築物等の3D都市モデル（LOD4）を整備する。 ※3D都市モデルの整備に当たっては、既存のBIMデータ等があれば、それを活用することも可能とする。 ②PLATEAU VIEWのウォークスルー機能の開発 ● LOD4の閲覧等に特化した機能（ウォークスルー機能）を開発する。 ③活用事例の創出 ● 整備した3D都市モデルの活用事例を創出する（例．歴史まちづくり関連コンテンツを作成、発信する）。

F. データハンドリング技術のOSS化

管理No	04
項目	3D都市モデルを3D City DBに対応させるためのプラグイン開発
カテゴリ	F. データハンドリング技術のOSS化
施策	● CityGML形式で作成された3D都市モデルを3D City DBに対応させるためのプラグインを開発する。 ● 3D都市モデルをリレーショナルデータベースとして管理することで、データの検索性・ハンドリング性を向上し、3D都市モデルの流通促進を支援する。
想定される スコープ	①3D都市モデルのリレーショナルデータベース化 ● PLATEAUが定める標準製品仕様（第3.X版、第4.X版等）に準拠したCityGMLを3D City DBに対応させるプラグインの開発及びオープン化 ● APIを通じて、3D City DBのデータを取得する機能の開発 ● データベース化における標準製品仕様との整合に関するドキュメント作成 ②リレーショナルデータベースの有用性検証 ● 3D City DBから取得したデータの活用事例の創出

2. ユースケース開発

G. 先進技術活用型ユースケース開発

管理No	05
項目	津波・氾濫流による家屋倒壊・瓦礫漂流物シミュレーションの開発
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発（防災・防犯）
施策	● 3D都市モデルを活用した津波や河川氾濫の発生時における精緻な家屋の倒壊及び瓦礫の漂流・堆積シミュレーションツールを開発する。 ● 避難行動計画津波や河川氾濫が発生した際の家屋の被害範囲・規模や道路機能への影響を推定することで、地域の防災計画や道路啓開計画の検討に活用する。
想定される スコープ	① 津波・氾濫流による家屋倒壊・瓦礫漂流物シミュレーションツールの開発 ● 建築物モデル及び地形モデルを活用した時系列の浸水シミュレーション機能の開発 ● 建築物モデルの建築年・建物構造等を基に、津波・氾濫流により倒壊・流出する建築物を判定する機能の開発 ● 津波・氾濫流で発生する瓦礫漂流物の分布を推計し、道路機能の阻害及びその影響を判定する機能の開発 ● 任意の範囲における瓦礫の発生総量を推計する機能の開発 ● 上記のシミュレーションをアニメーション等で可視化する機能の開発 ● 行政職員の利用を想定した簡易なGUIの提供

管理No	06
項目	災害現場における3D都市モデルの迅速な被害状況把握及び情報共有ツールの開発
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発（防災・防犯）
施策	● 3D都市モデルを活用し、被災現場の平時の状況に関する情報を迅速に入手し、汎用的な小型デバイスを用いて視覚的に確認できるツールを開発する。 ● 災害時、消防、自衛隊等の隊員が被害状況の把握やがれき処理等の対応、隊員間での情報共有を迅速かつ円滑に行うことを実現する。
想定される スコープ	① 災害現場における3D都市モデルの迅速な被害状況把握及び情報共有ツールの開発 ● 被災現場に絞った3D都市モデルを読み取りの機能の開発。 ● スマートフォン等のカメラ機能を活用し、上記で読み取った3D都市モデル（被災前の状況）をAR等を用いた可視化映像により被災現場と重畳する機能の開発。家屋の倒壊状況や被災者に関する情報を追加で書き込める機能の開発 ● 隊員が把握した被災状況に関する情報を関係者間でリアルタイムに共有し合うための情報基盤の開発。

管理No	07
項目	火災延焼シミュレーションシステムの開発
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発（防災・防犯）
施策	● 3D都市モデルを活用した簡易な火災延焼シミュレーションシステムを開発する。 ● 解析対象範囲や風向等を含む解析条件を容易に設定できるようなUIを備えるとともに、解析結果を可視化することで、地方自治体における防火対策検討や地域住民の危機意識醸成を支援する。
想定される スコープ	①火災延焼シミュレーションシステムの開発 ● 建築物モデルの施設形状や構造情報に加え、地形モデルを加味した三次元的な延焼解析を行う機能の開発 ● 非専門家が解析対象範囲や風向・風速等の解析条件を容易に設定し、操作を実行できる簡易なUIの実装 ● 解析結果を任意の三次元ビューアで可視化できるデータ形式で出力する機能の開発 ● サードパーティ利用を促進するための火災延焼シミュレーションシステムのオープン化

管理No	08
項目	仮想道路空間における交通安全対策シミュレーション
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）
施策	● 3D都市モデルデータを活用した三次元仮想道路空間内において、交通事故対策を目的とした社会実験を実施できるシミュレータを開発する。 ● 現地での仮想工事を伴う従来の社会実装の代替として、3Dの仮想道路空間内で交通安全対策の効果や交通規制の影響を分析するツール開発することで、道路管理者等による交通事故対策の検討を支援する。
想定される スコープ	①3D仮想道路空間の構築とシミュレーション活用 ● PLATEAUの3D都市モデルを基盤に、仮想道路空間を構築 ● 点群データやCIM（Construction Information Modeling）モデルを活用し、仮想道路空間の詳細を補完する。 ● ドライブ動態シミュレータを使用して、異なる属性（年齢、性別、経験など）のドライバーによる運転挙動測定を行う機能の開発。

管理No	09
項目	建築計画ボリューム可視化シミュレーションシステムの開発
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）
施策	● 3D都市モデルの属性情報を活用し、敷地条件を読解し、建築物の計画ボリュームを自動出力するシステムを開発する。 ● 建築物の計画ボリュームを可視化することで、不動産取引における検証に係る時間やコストの削減を図る。
想定される スコープ	① 属性データを活用した汎用性の高い敷地条件の読解システム開発 ● 3D都市モデルの都市計画区域や土地利用のデータから容積率や敷地面積等の情報を取得し、解析条件として読み込む機能の開発。 ● 3D都市モデルの道路データから種別を判別し、解析条件として読み込む機能の開発。 ② 敷地を選択するだけで計画ボリュームを自動出力するシステム開発 ● 3D都市モデルが所有する属性データを利用し、敷地と道路を判別する機能、指定容積率と敷地面積を取得する機能の開発。 ● 斜線制限や日影規制等を考慮した複数敷地での一体的な開発時の簡易な計画ボリューム検証を行う機能の開発。 ● 検証データはFBX形式等により、CADソフトによる作図検討へ活用できるようにすること。

管理No	10
項目	3D都市モデルを活用した不動産事業者向け情報集約システムの開発
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）
施策	● 商用利用実績のあるGISに3D都市モデルと分散している不動産情報を統合することで不動産取引に必要な情報を一元的に集約するGISを開発する
想定される スコープ	① 不動産事業者向け情報集約システム開発 ● 3D都市モデルと分散している不動産情報を統合することで、不動産事業者の情報収集にかかる手間を効率化し、3次元で精度の高い情報を提供するGISを構築。 ● 不動産情報の収集だけでなく、建物災害等の様々なシミュレーションが可能となる機能を実装する。

管理No	11
項目	樹木データを活用した樹木管理及び都市環境評価支援システムの開発
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発（環境・エネルギー）
施策	● 経年変化を表現可能な三次元樹木モデルを活用した樹木管理システム及び緑の効果の定量的評価手法の開発、緑の整備効果を最大化するための支援システムの開発を行う ● 樹木を一元的にデータ管理することで自治体の管理コストを削減するとともに、都市の緑化政策を定量的に効果予測・検証することを可能とする。
想定される スコープ	① 経年変化を表現可能な三次元樹木モデルの開発と樹木管理システムの開発 ● 周辺環境を考慮した樹木の生長モデル、樹木の剪定モデルの開発 ● 樹木の劣化、剪定の必要性、倒木リスク等を一元的に把握可能な管理システムの構築 ② 緑の効果の定量的評価手法の開発 ● 緑の整備計画等を検討する際の各種計画案を比較検討するための計画支援ツールの開発 ● 緑の多面的効果（暑熱、景観、防風等）を定量的に評価するための各種シミュレーション手法の開発 ③ 緑の整備効果を最大化するための維持管理支援システムの開発 ● 上記評価手法の結果を統合的に評価し、整備効果の高い緑の管理計画の作成を支援するため、経年変化を考慮した緑の多面的効果と緑による市民の賑わい創出を統合的に確認することができるダッシュボードを開発

管理No	12
項目	壁面太陽光発電ポテンシャル推計システムの開発
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発（環境・エネルギー）
施策	● 3D都市モデルを活用した都市スケール及び建物単位での壁面太陽光発電ポテンシャル推計システムを開発する。 ● LOD1-2の建築物モデルから窓や壁等の面積を推定する機能を開発し、建材一体型太陽光発電パネルにも対応した発電ポテンシャル推計を行うことで、効果的な太陽光発電設備の導入計画の検討を支援する。
想定される スコープ	①壁面太陽光発電ポテンシャル推計システムの開発 ● LOD1-2の建築物モデルから窓や壁等の面積を推定する機能の開発 ● 部材別かつ1時間単位での太陽光発電ポテンシャル推計を行う機能の開発 ● 解析結果を任意の三次元ビューアで可視化できるデータ形式で出力するほか、ダッシュボードで可視化する機能の開発 ● 非専門家が解析対象範囲等の解析条件を容易に設定し、操作を実行できる簡易なUIの実装 ● サードパーティ利用を促進するための太陽光発電ポテンシャル推計システムのオープン化

管理No	13
項目	3D都市モデルとBIMを活用した三次元シームレス物流の実現
カテゴリ	G. 先進技術活用型ユースケース開発（モビリティ・ロボティクス）
施策	● 3D都市モデルとBIMを活用した屋内外の統合マップを作成し、自律飛行ドローン及び無人搬送車両（AGV）を組み合わせたシームレスな三次元輸送システムを、実環境での安全な自動運行が可能なレベルで開発する。 ● 都市部における建設工事における資材運搬等に活用することで、交通渋滞の緩和や施工の効率化を実現する。
想定される スコープ	① 自律飛行ドローン及びAGVの運行シミュレーションの高度化 ● 3D都市モデルを基にしたAGVの運航設計領域（ODD）の走行シミュレーション技術の開発 ● 3D都市モデル等の属性情報を活用し、リスクを考慮したドローンの飛行経路算出機能の開発 ● ドローン及びAGVの自動運行ルートを作成/合成し、統合的に運航管理及びモニタリングを行う機能の開発 ② センシング情報から環境に合わせて統合マップを更新する機能の開発 ● 3D都市モデルとBIMを活用した屋内外の統合マップを現実に合わせて更新する機能の開発 ● 更新された統合マップを管理し機体間で共有する機能の開発

H. 先端技術研究型ユースケース開発

管理No	14
項目	データ駆動型汎用高速物理シミュレーション
カテゴリ	H. 先端技術研究型ユースケース開発（防災・防犯）
施策	- AIを活用し、人流予測や発災時の被害、エネルギーポテンシャルの評価といった膨大なインプットを伴うシミュレーションを高速に実行でき、かつ、より精緻な結果を得られるシステムを開発する。 - 一般的な（物理などの支配方程式を基礎とする）シミュレーションでは結果取得に長時間を要する分野や短時間での結果取得ニーズがある分野へも施策の効果予測・評価のためのシミュレーション利活用の裾野を広げる。
想定される スコープ	①AIを活用した水害シミュレーションシステム開発 - AIを活用した洪水、津波、高潮といった水害シミュレーションにより、破堤点や海水の流入箇所などを多数想定し、施策ごとの効果を評価できるシステムを開発する。 - 施策ごと、想定シチュエーションごとの網羅的な水害状況想定が実現されることで、適切な都市施策の高速な選定が可能及び検討時間、経済的コストの削減を実現する。

管理No	15
項目	豪雪地帯の建築物における落雪リスク算出システムの開発
カテゴリ	H. 先端技術研究型ユースケース開発（防災・防犯）
施策	3D都市モデルと積雪過重情報を活用し、落雪のリスクを家屋単位で定量的に予測可能なシステムを開発する。 - 高齢化により雪下ろしの担い手が減少する中、家屋単位での落雪リスク把握により雪下ろしの適切な優先順位付けを行うことで、豪雪地帯において深刻化する屋根雪や除雪中の人災を防止し、自治体やインフラ管理者による除雪対応を効率化する。
想定される スコープ	①3D都市モデルの形状・属性に関する情報と積雪荷重情報を用いて、積雪による建物の損壊や落雪のリスクを建築物単位で予測し、それに基づく雪下ろしの優先度を評価する機能の開発。 ②予測上記で算出したリスクや雪下ろしの優先度をデジタルマップ上に可視化するシステムの開発。

管理No	16
項目	LLMエージェント型人流シミュレーションを用いた自然言語による都市構造評価
カテゴリ	H. 先端技術研究型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）
施策	● LLMを活用したマルチエージェントを用いた人流シミュレーションにより、3D都市モデルで再現した都市計画に対してエージェントが自然言語で評価を出力することで、専門家でなくてもシミュレーション結果を容易に確認できることを実現する。 ● 従来のエージェントシミュレーションは、観点ごと（安全性、快適性、行動変容の影響）の個別エージェントの構築や検証に高いコストが生じていたが、LLMを用いることで専門的な技術を必要とせず、複数の観点を包含した統合的な分析を実現する。
想定される スコープ	① AIを用いたエージェントによる人流シミュレーションツールの開発 ● LLMによる自然言語で評価出力を行うエージェント生成機能の開発 ● エージェント同士がコミュニケーションを行う機能の開発 ● エージェントごとの評価を取りまとめて出力する機能の開発

管理No	17
項目	屋内空間のバリアフリー対応状況を可視化するシステムの開発
カテゴリ	H. 先端技術研究型ユースケース開発（地域活性化・観光・コンテンツ）
施策	● 3D都市モデルを活用し、建物設計においてバリアフリー要対応箇所を把握し可視化する。 ● 事業者によるバリアフリー整備を加速し、多発する高齢者の転倒等による事故を軽減する。
想定される スコープ	① 屋内空間のバリアフリー対応状況を可視化するシステムの開発 ● 3D都市モデルとBIMデータ利用し、建物内における介護福祉観点での課題（車いすでの通過が困難である等）を抽出する機能を開発。 ● 該当箇所をデジタルマップ上に可視化し、改善案を表示する機能を実装。

I. 社会実装型ユースケース開発

管理No	18
項目	街路空間の再整備計画等における合意形成ツールの作成
カテゴリ	I. 社会実装型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）
施策	3D都市モデルを活用した街路空間シミュレーションツールにより、道路・歩行空間の再編の検討や再編後の街路空間の街並みの確認を行うことで、再整備計画の検討の効率化を実現する。 - 従来は専門家が実施していた街路空間の再整備計画等におけるイメージパース・イメージ動画の作成を自治体職員が自ら実施することを可能とし、資料作成の効率化・合意形成の促進を図る。
想定される スコープ	① 街路空間シミュレーション機能の開発 3D都市モデルを活用してデジタル空間上で街路空間を再現し、街路オブジェクトの配置を検討する機能の開発 - 道路空間の再編として、車線の減少による歩行空間の拡幅等をシミュレーションできる機能の開発 - 季節・天候・時刻の変化による日照シミュレーション機能の開発 ② 資料作成支援機能の開発 - イメージパースや住民説明会時に使用するイメージ動画の作成支援機能の開発

管理No	19
項目	ウォーカブルな都市空間づくりのための統合型シミュレータの開発
カテゴリ	I. 社会実装型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）
施策	● 3D都市モデルを活用した歩行回遊シミュレータ、自動車ミクロ交通シミュレータ、沿道建築物景観シミュレータが、連動して機能するプラットフォームとユーザーインターフェイスを開発する。 ● 地域の再開発を検討するにあたり必要となる、連続的な歩行回遊ネットワークの形成、自動車交通影響への配慮、沿道建物の再開発によるアイレベルの空間の質向上を1つのツールで総合的に検討することを可能とし、都市開発の品質向上や紛争防止、合意形成の円滑化等を図る。
想定される スコープ	① 車道と歩行経路が一体となった道路ネットワークデータ生成機能の開発 ● 3D都市モデルとその他のオープンデータを活用し、歩行者用ネットワークと自動車用ネットワークが対応付けられた統合的道路ネットワークデータを生成する機能を開発。 ● シミュレーション実施におけるデータ連携の煩雑さを解消し、誰もが手軽に利用可能なオープンな道路ネットワークデータの生成機能を開発。 ② 歩行者・自動車・景観の総合的な可視化機能の開発 ● 歩行者と自動車の相互影響を評価し、都市計画の調整と最適化を支援するため、歩行回遊シミュレータ、自動車シミュレータ、景観シミュレータによる結果を3D空間上で一体的に表現する可視化機能を開発。

管理No	20
項目	大規模イベント開催等に伴う人流・交通シミュレータの開発
カテゴリ	I. 社会実装型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）
施策	3D都市モデルを活用し、来場者の会場内における人流及びイベント期間中の会場周辺の交通量を予測する統合的なシミュレータを開発する。 - 大規模イベント開催時に会場内外の混雑・渋滞により来場者の安全や満足度が損なわれることのないよう、イベント主催者が、会場内の人流や会場周辺の交通流を予測し、会場設計や輸送計画を一体的に検討することを支援する。
想定される スコープ	① 大規模イベント開催に伴う会場内の人流・周辺交通シミュレータの開発 3D都市モデルや人流データを活用し、来場者数や会場内の歩行空間面積・施設配置による人流の変化をシミュレーションする機能の開発。 3D都市モデルを活用し、会場周辺の公共交通機関の増便や交通規制、駐車場整備の影響も含めた周辺交通量の変化をシミュレーションする機能の開発。 - エンドユーザー向けのGUIや三次元ビューアの実装

管理No	21
項目	3D都市モデルと人流シミュレーションを活用した花火大会の会場適地選定
カテゴリ	I. 社会実装型ユースケース開発（都市計画・まちづくり）
施策	3D都市モデルを利用して花火が見えるエリアを網羅的に選定し、打ち上げ場所の適地選定を効率化する。 - 花火の視認エリアを人流シミュレーションによる混雑状況の分析結果を組み合わせることで、観覧場所の適地選定や人員誘導計画の策定を効率化する。
想定される スコープ	① 花火大会の会場の適地選定シミュレータの開発 3D都市モデルを利用したアイレベルでの視野のシミュレーション機能、視認性の評価を行う仕組みの開発 - 花火が見えるエリアに連動した人流の滞留が再現可能な人流シミュレータの開発 - 人流シミュレーションの結果を踏まえ、交通誘導・警備員の配置計画の策定支援を行う機能の開発 ② OSSライブラリを活用したローカル環境で動作するシステムとしての実装及びOSS化 - 自治体職員が特別な準備をせずに自身の環境で利用できるシステムを想定し、OSSライブラリを活用したスタンドアロンのソフトウェアとして実装・OSS化

管理No	22
項目	駅バリアフリーナビゲーションシステムの開発
カテゴリ	I. 社会実装型ユースケース開発（地域活性化・観光・コンテンツ）
施策	● BIMモデル等を活用し構築した建物モデル（LOD4）や地下街モデル等の3D都市モデルを活用し、車両・ホーム・コンコース・改札・出口をつなぐ、ベビーカー・車椅子利用者向けのシームレスなバリアフリーナビゲーションシステムを提供することでバリアフリー化を推進する。 ● 単一の駅のみならず、複数の駅、線区、鉄道会社に展開することで、車椅子利用者の円滑な移動を支援し、ユニバーサル社会の実現を前進させる。
想定される スコープ	① 3Dバリアフリー経路検索機能の開発 ● 現在地から目的地までの乗り換えを含めた3Dバリアフリー経路探索機能の開発 ● 車両・ホーム・コンコース・改札・出口をつなぐ経路を視覚的に分かりやすく可視化する3Dナビゲーション機能の開発 ② ベビーカー・車椅子利用者向け機能の開発 ● ルート検索履歴表示機能：外出前に検索したルートを呼び出せる機能の開発 ● リルート検索機能：ルートから逸れた際に自動で最適な経路を再検索する機能の開発

管理No	23
項目	地下埋設物モデルを活用した建築設計・施工管理
カテゴリ	I. 社会実装型ユースケース開発（インフラ管理）
施策	● 複数の都市を対象に、地上及び地下の3D都市モデルを活用した都市開発の検討手法を確立し、効率的なインフラ整備や災害対策、観光促進の課題を解消する。 ● 1/500精度の3D都市モデル（地上）と3D都市モデル（地下）を用いて、実在するインフラ整備における障害物の検証を行う。 ● 自治体による3D都市モデル（地下）の更新手法を確立し、実務者の技術習得環境を構築するため、ハンドブックの作成や勉強会を実施する。
想定される スコープ	① 都市開発支援のシステム構築 ● 3D都市モデルを活用した都市開発のためのシステムを構築 ● 地上及び地下の3D都市モデルデータを統合し、システム上で一体的に管理・活用できる環境を整備 ② 3D都市モデル整備（地上・地下） ● MMSで取得した点群データを基に、位置基準情報を抽出し、既存のインフラ設備台帳と組み合わせて位置補正作業を実施 ● モデル整備に際しては都市開発の検討に活用することを目的とし1/500精度の3D都市モデル（地上・地下）を構築 ● 地下埋設物モデルの作成及び更新手法ガイダンスの整備 ● 自治体の実務者が3D都市モデル（地下）の作成及び更新手法を習得できるハンドブックを作成 ● 実務者に技術習得を促進するハンドブックを用いた勉強会を開催 ● ハンドブックと勉強会を通じて、自治体が自主的に3D都市モデルを更新・活用できる体制を構築し、その有用性を検証

管理No	24
項目	地方公共団体向けクラウド型GISサービスの開発
カテゴリ	I. 社会実装型ユースケース開発（その他）
施策	● 3D都市モデルを活用した既存の地方公共団体向けの業務支援ツール等をウェブ上で利用可能なサービスとして開発する。 ● 全国の地方公共団体がウェブ上で利用できる三次元GISサービスを構築することで、これまで紙や二次元のGISを用いて実施していた地方公共団体の業務の効率化・高度化を促進する。
想定される スコープ	① 地方公共団体向け業務支援ツールのクラウド化 ● 既存のオンプレミス型の業務支援ツールと同等の機能を有するクラウド型ツールの開発（例：時系列浸水シミュレーション） ② 全国の地方公共団体が利用可能なクラウド型GISサービスの開発 ● ユーザーの認証及び権限管理機能の開発 ● 地方公共団体が有するGISデータや行政情報をウェブ地図上で登録・管理する機能の開発 ● 地方公共団体の職員を主なユーザーとして想定した簡易なGUIや三次元ビューアを備えること

3. コミュニティ形成

J. ムーブメント惹起

管理No	25
項目	GIS教育に利用可能な都市シミュレータ・教育コンテンツの開発
カテゴリ	J. ムーブメント惹起
施策	3D都市モデルをベースとした都市シミュレータにより、地域に根ざした社会学習、地域学習、歴史学習が可能なWebGIS教育システムを構築する。 - 開発したシステムを用いた学生向けの地理・GIS授業を設計し、学校の課外授業等として提供する。これにより、学習者に対して社会教育の深堀、プログラミング的思考の習得等の機会を提供する。
想定される スコープ	① 都市シミュレータの開発 - 建物や構造物等の新規設置や移動、「お気に入り」登録、外部リンク登録、モデル表示切替、環境・交通表示等の機能を備えたシミュレータを開発 - シミュレーションに必要なビジュアルプログラミング機能を開発 ② 学習コンテンツの開発 - 学年や学習期間に応じた地理学習やWebGIS学習のコンテンツを整理 - 達成目標等を設定し、学習の進捗を可視化

管理No	26
項目	XRを活用した都市型エンターテインメント
カテゴリ	J. ムーブメント惹起
施策	● 集客力のあるイベントや商業施設等とコラボレーションし、3D都市モデルを活用した都市型XRエンターテインメントを提供する。 ● 3D都市モデルとXR技術を活用したコンテンツを提供し、体験して貰うことで、その認知の裾野を一般大衆にまで拡大する。
想定される スコープ	① 3D都市モデルとXR技術を用いたコンテンツの開発 ● 3D都市モデルを活用し、都市型XRコンテンツ（例：IPを活用した体験型コンテンツ、空間伝送によるイベントの共同配信）を制作 ● コンテンツをスマートフォン、タブレット、ヘッドマウントディスプレイ、等を介して表示する機能を開発 ② イベントの開催・運営 ● ユーザ参加型コンテンツ作成やコンテンツの観覧を目的としたイベントの開催 ● イベント開催の際には、集客力のあるイベントや商業施設とコラボレーションし、効率的に集客を実施

4. オープン・イノベーションの創出

T. データアクセシビリティの向上

管理No	27
項目	3D都市モデルと統合型GISの連携手法の開発
カテゴリ	T. データアクセシビリティの向上
施策	- 自治体への導入が推進されている統合型GISに3D都市モデルを利用可能な仕組みを組み込むことで、3D都市モデル活用のすそ野を広げる。 - 統合型GIS上で3D都市モデルを含む様々なGISデータを集約・統合できる環境を整備することで、自治体が保有するGISデータとの連携円滑化とこれに伴う行政業務の効率化を図る。
想定される スコープ	① 統合型GISとの最適な連携方法の調査 - 統合型GISのソフトウェア・プラットフォームを調査し、PLATEAUエコシステムの拡大のために最適な3D都市モデルの連携方法を選定する ② 汎用的に利用可能な3D都市モデル連携機能の開発 - 既存の統合型GISに対して、PLATEAUとの連携機能をプラグインあるいはAPI連携等の外部モジュールとして実装する

管理No	28
項目	PLATEAU VIEWデスクトップ版（簡易なシミュレーション機能等を含む。）の開発
カテゴリ	T. データアクセシビリティの向上
施策	- インターネットの通信環境が悪い場合やPCのスペックが低い場合、PLATEAU VIEWを閲覧することが困難である。また、これまで数多くのユースケースが開発され、OSS化されているが、実際の使用に当たっては、システムの構築が必要な場合が多く、容易に使用できない場合がある。これらの課題が改善されることにより、3D都市モデル等の更なる普及が期待される。 - 通信環境が悪い場合やPCのスペックが低い場合でも動作するPLATEAU VIEWのデスクトップ版を開発する。 - 開発に当たっては、3D都市モデルのユースケースについて、システム構築等が不要で容易に使用できるできるよう、上記PLATEAU VIEWのデスクトップ版上で使用できるようにする。また、低コストで開発できるよう、簡易的な機能のみを有すること等に配慮する。
想定される スコープ	① PLATEAU VIEW デスクトップ版の開発 - 通信環境が悪い場合やPC等のスペックが低い場合でも動作するPLATEAU VIEWのデスクトップ版を開発する。 - 既存及び新規のユースケース（時系列の浸水シミュレーションなど。ただし、低コストで開発できるよう、簡易的な機能のみを有すること等に配慮する。）について、PLATEAU VIEWのデスクトップ版でも使用できるようにする。 ② PLATEAU VIEW デスクトップ版 の操作マニュアル - PLATEAU VIEW デスクトップ版 の操作マニュアルのテキスト版及び動画版を整備する。

5. エコシステム構築

X. 国際展開

管理No	29
項目	PLATEAUの国際展開ニーズ調査及びモデルデータ整備
カテゴリ	X. 国際展開
施策	- 海外における3D都市モデルに関するニーズを調査し、これまで蓄積してきた3D都市モデルの整備から活用までのノウハウについて、更なる海外展開可能性を検討及び海外進出を図るための戦略策定を行う。 3D都市モデルのニーズがある国においてモデルとなる3D都市モデルを整備し、相手国における活用可能性を調査し、継続したプロモーションを行う。
想定される スコープ	① 3D都市モデルのニーズ調査及び海外進出を図るための戦略策定 - アジア新興国における相手国政府や民間企業の3D都市モデルの整備・活用状況の調査、3D都市モデルの国際標準の導入希望調査等の実施及び3D都市モデルの国際展開を進めていくため、長期的なビジョン及びこれを達成するためのロードマップ策定。 - 国際機関の意向・状況調査 ② モデルデータの整備及びプロモーション - 対象国での国際展開に向けたモデルデータの整備及びデータを用いたソリューション提案の実施 - 現地での展示会出展、ワークショップ開催等のプロモーション活動の実施

以上